

KEF REPORT 2025年度

創ろう、九州新時代
拓こう、アジアの新世紀



KYUSHU ECONOMIC FORUM.

九州経済フォーラム

KEFレポート 目次

KYUSHU ECONOMIC FORUM.
2025年度

01 トップメッセージ

九州経済フォーラム 会長 石原 進 3

02 事業報告

○2025年度事業一覧 4～8

○主要事業レポート
「九州・台湾クリエイティブカンファレンスin熊本」 9～11

03 寄稿

国立台湾大学 名誉教授、アジア太平洋学術産業連携協会 会長
柯 承恩 (Chen-en Ko) 氏 12

04 会員紹介～Origin・原点～

九州経済フォーラム 常任理事
トヨタ自動車九州株式会社 経営基盤強化領域長 鷹見 昭人 氏 13
西部ガスホールディングス株式会社 取締役常務執行役員 御手洗 淳 氏 13

05 新規法人会員企業紹介

株式会社サニックスホールディングス 14
株式会社シーアンドイー 14

06 九州経済フォーラム役員一覧 15～17

世界経済は現在、大きな転換期を迎えています。各地で地政学的リスクが高まる一方、AIをはじめとするデジタル技術の急速な進展は、産業構造や社会のあり方そのものを大きく変えています。特に生成AIの普及は、企業活動、研究開発、教育など幅広い分野に影響を及ぼしており、まさに「第4の波」（AIの時代）とも呼ばれる新たな時代に本格的に入りつつあります。

日本経済においては、近年、株価上昇や賃上げの動きが見られ、長く続いた停滞から脱却への期待も高まっています。一方で、物価上昇による生活費の増加、国際情勢の不安定化、エネルギー価格の変動、人手不足の深刻化など、依然として先行き不透明な状況が続いています。こうした環境変化に対応しながら、日本経済を持続的な成長につなげていくためには、新産業の育成と、それを支える人材への投資が不可欠です。



九州経済フォーラム
会長 石原 進

そのような中、九州は今、歴史的な大きなチャンスを迎えています。熊本ではTSMC第1工場が稼働を開始し、第2工場の建設も進められるなど、半導体関連企業の集積が急速に進展しています。半導体は、AI、ロボット、次世代通信、モビリティ、医療など、あらゆる先端産業を支える基盤技術であり、21世紀の戦略産業の中核と言えます。

かつて九州は「シリコンアイランド」と呼ばれ、日本の半導体産業を牽引してきました。今再び、半導体を核とした新たな産業構造を形成し、日本経済の再成長をリードする地域として、大きな期待が寄せられています。重要なのは、単なる工場誘致に留まらず、研究開発、人材育成、スタートアップ創出などを含めた産業エコシステムを地域全体で構築していくことです。

九州経済フォーラムにおいても、こうした時代認識のもと、産学官金の連携による新たな価値創造に取り組んでいます。25年度は、「九州・台湾クリエイティブカンファレンスin熊本」を開催し、AI、半導体、医療、宇宙、スタートアップ、人材育成などをテーマに、国内外の研究者、経営者、行政関係者らによる活発な議論と交流を行いました。

本カンファレンスは、世界最前線の知見と地域の可能性を結び付け、新たな産業やイノベーション創出につながる貴重な機会となりました。

26年度は、立命館アジア太平洋大学（APU）とも連携し、大分において本カンファレンスを開催する予定です。また、27年度の開催予定地である長崎においても、先行的なシンポジウムや講演会の開催を予定しており、九州各地へ活動の輪を広げながら、次世代産業と人材育成につながる交流をさらに深めていきます。

これからの時代に求められるのは、単なる知識量ではなく、自ら課題を発見し、構想し、挑戦する力です。理工系教育の充実に加え、英語力、デジタル技術、リスキングなど、変化に対応できる人材育成が極めて重要になります。未来を担う若い世代が、九州から世界へ挑戦できる環境を整えていかなければなりません。

九州経済フォーラムも引き続き、産学官金の連携を深めながら、地域の持続的な発展と次世代人材の育成に向け、会員の皆様とともに挑戦を続けていきます。

02 事業報告 ～2025年度事業一覧～

【4月】4月早朝会(第224回) (日時：令和7年4月24日(木))

テーマ『赴任者としての私の読書 - その楽しみと効用 -』

会場：株式会社Fusic オープンオフィス

講師：日本銀行 福岡支店長 佐久田 健司 氏

参加人数：30名



【6月】令和7年度 第1回理事会・定期総会・特別講演 (日時：令和7年6月16日(月))

テーマ『人生の可能性は無限大 不可能を可能に』

会場：グランドハイアット福岡 2F ザ・レッドローズ/サボイⅡ/サボイⅠ

講師：東京大学 先端科学技術研究センター フェロー 蒲島 郁夫 氏

参加人数：72名



【7月】第13回産学官交流会 ※福岡県中経協連合会連携事業 (日時：令和7年7月30日(水))

テーマ『江戸を温めて、新しきを知る ～シリコンバレーとインドで起業した旗本の子孫の視点～』

会場：八仙閣 3F 天

講師：起業家・投資家 長山 大介 氏

参加人数：54名



02 事業報告 ～2025年度事業一覧～

【9月】9月早朝会(第225回) (日時：令和7年9月4日(木))

テーマ『地元メディアの役割と展望』

会場：株式会社西日本新聞社 10階会議室

講師：株式会社西日本新聞社 代表取締役社長 田川 大介 氏

参加人数：33名



【9月】令和7年度 第1回車座談義 (日時：令和7年9月25日(木))

テーマ『100億円企業への成長と軌跡 ～傍流が本流になるとき～』

会場：ソラリア西鉄ホテル福岡 8F 彩雲 [花] / 17F レッドフランマ

講師：株式会社筑水キャニコム 代表取締役社長 包行 良光 氏

参加人数：39名



【10月】第14回産学官交流会 ※福岡県中経協連合会連携事業 (日時：令和7年10月27日(月))

テーマ『なんで世の中「問題だらけ」なの?』

会場：八仙閣3F 天

講師：株式会社Ridilover 代表取締役 安部 敏樹 氏

参加人数：48名



02 事業報告 ～2025年度事業一覧～

【11月】九州・台湾クリエイティブカンファレンスin熊本（日時：令和7年11月20日(木)、21日(金)）

会場：熊本城ホール 2Fシビックホール/3F会議室

ゲスト：スタンフォード大学SLDDDRS 所長 西村 俊彦 氏

国立台湾大学 名誉教授 Chen-en Ko 氏

National Science and Technology Council, Taiwan 副大臣 Robin Chen 氏

熊本県 知事 木村 敬 氏

九州経済連合会 会長 池辺 和弘 氏 ほか53名

参加人数：747名（2日間延べ人数）



【12月】12月早朝会(第226回)（日時：令和7年12月5日(金)）

テーマ『グローバルなホスピタリティカンパニーを目指して』

会場：ガーデンテラス福岡 ホテル&リゾート 『THE W』

講師：株式会社メモリード 代表取締役社長 吉田 昌敬 氏

参加人数：36名



【12月】令和7年度 忘年例会（日時：令和7年12月22日(月)）

テーマ『今、問われる九州の姿勢』

～九州・台湾クリエイティブカンファレンスから見てきたこと～

会場：ホテル日航福岡 新館2F ラメール

講師：スタンフォード大学 SLDDDRS 所長 西村 俊彦 氏

参加人数：45名



02 事業報告 ～2025年度事業一覧～

【1月】服部県知事を囲む新年祝賀会（日時：令和8年1月28日(水)）

会場：福岡県知事公舎

参加人数：163名



【2月】令和7年度 特別講演会（日時：令和8年2月20日(金)）

テーマ『中国最新情勢と日本』

広東・広州・深圳から見る中国のイノベーション力、グローバル展開力』

会場：ホテルニューオータニ博多 3階「アイリス」

講師：在広州日本国総領事 貴島 善子 氏

参加人数：81名



【3月】第15回産学官交流会 ※福岡県中経協連合会連携事業（日時：令和8年3月2日(月)）

テーマ『「仕組み」の限界の先に、人間を取り戻す』

～IT企業を創業・経営してきた私がいま、あえて「不条理な手触り」を信じる理由～』

会場：八仙閣5F 蘇芳・連翹

講師：株式会社グルーヴノーツ 創業者 佐々木 久美子 氏

参加人数：53名



02 事業報告 ～2025年度事業一覧～

【3月】令和7年度 第2回理事会・第2回車座談義（日時：令和8年3月19日(木)）

テーマ『未来を拓く金融リテラシー ～スタンフォード発・日本人のための資産戦略とは～』

会場：アークホテルロイヤル福岡天神 3F 孔雀

講師：スカイインベストメントマネージャーズ株式会社 代表取締役/ストラテジスト
志村 暢彦 氏

参加人数：22名



2025年度 実績サマリー

■ 開催事業数：13件

- ・ 国際連携事業：1件（九州・台湾クリエイティブカンファレンス in 熊本）
- ・ 新年祝賀会：1件
- ・ 忘年例会：1件
- ・ 早朝会：3件
- ・ 車座談義：2件
- ・ 特別講演：2件（蒲島 郁夫 氏、貴島 善子 氏）
- ・ 産学官交流会：3件

■ 延べ参加人数：1,423人

【11月】九州・台湾クリエイティブカンファレンスin熊本

日時：令和7年11月20日(木)、21日(金)

会場：熊本城ホール 2Fシビックホール/3F会議室

九州経済フォーラムでは、令和7年11月20日(木)・21日(金)の2日間、熊本城ホールにて「九州・台湾クリエイティブカンファレンスin熊本」を開催した。JASM/TSMCの熊本進出を契機に、「シリコンアイランド九州の復活」と「台湾・米国(シリコンバレー)との連携深化」を目的とした本カンファレンスには、日・台・米の産学官金のリーダーら計59名が登壇。2日間で延べ747名の方々にご参加いただき、熱気あふれる議論が展開された。

本記事では、2日間のハイライトを紹介させていただく。

<1日目>

九州経済フォーラム石原会長の挨拶から本カンファレンスがスタートした。石原会長は、九州・台湾・米国の産学官金関係者が交流を深め、新たなビジネス創出や地域課題の解決を目指す本カンファレンスの意義を紹介した。また、TSMCの熊本進出を契機とした九州経済への波及効果や、台湾のサイエンスパークに学ぶ産学官連携・人材育成の重要性について述べ、本カンファレンスが九州経済の持続的発展につながることへの期待を語った。

また、西村俊彦氏とChen-En Ko氏は、九州の立ち位置をグローバルなハブ構造へと拡張する戦略を提示した。台湾から九州へは空路で1.5時間という圧倒的な近接性があり、シリコンバレーを足場とすることで、世界市場へ直結する「3極連携モデル」を構築すると示された。



▲開会挨拶で本大会の意義を述べる九州経済フォーラム 石原会長



▲熊本の未来戦略について語る熊本県 木村知事

次に、熊本県 木村知事、熊本大学 小川学長、熊本県立大学 黒田理事長らが登壇し、新生熊本のビジョンが語られた。地政学的視点から見て、熊本の立ち位置は日本地図の「西の端」から東アジア全域を俯瞰する「中心」へと再定義された。台湾との独自の心理的・文化的近接性こそが、TSMC進出の決定的な要因となっており、この歴史的転換点は、世界に開かれたハイテク産業の中枢を再構築する国家規模の喫緊の課題と位置づけられた。これを確実な成長へ繋げるため、「産業インフラのさらなる強化」「知的資本の再定義と集積」「AI時代をリードする課題解決型人材(剣山型人材)への転換」という三つの戦略的柱が示された。

最後に、究極のビジョンとして、官民連携による社会実装のフロンティア「熊本サイエンスパーク」の確立が掲げられた。日本独自の基礎研究を迅速にビジネスへ繋ぐこの取り組みを通じ、熊本発の変革を日本再生のモデルケースとし、世界の産業史を書き換えるという強い決意で締めくくられた。

九州経済フォーラムのセッションでは、当フォーラム常務理事・株式会社Fusicの浜崎副社長を含む、産学連携の有識者4名が登壇し、大学の技術シーズを基盤としたスタートアップ創出の戦略的意義について議論された。九州の大学が産業創出の主体へと変貌する中、九州大学の「九大OIP」や広域連携「PARKS」の取り組みが紹介された。創業ベンチャーの事例を通じ、ディープテック特有の「死の谷」を越えるための伴走モデルや専門家集団の形成の重要性が示された。最終的に、高度人材が集い自律的なイノベーションを生む「グローバル・ナレッジタウン」の実現が今後の目標として掲げられた。



▲KEFセッションでは、スタートアップ創出をテーマに活発なパネルディスカッションが行われた

<2日目>

2日目の始まりとして、九州経済連合会の池辺会長より、新たな投資と人材の流れを持続的発展に繋げる決意が表明された。その中核となる戦略構想「新生シリコンアイランド九州グランドデザイン」の全容では、受動的な「下請け拠点」からの脱却に向け、各県の卓越した産業基盤をネットワーク化する「イノベーション・マルチハブ構想」の推進が提示された。台湾貿易センターおよびJETROとのMOU締結による国際連携の深化や、防災DX・生活インフラの向上を通じてグローバル高度人材を惹きつける「地域価値競争グループ」へと九州を変革する展望が力強く語られた。



▲「新生シリコンアイランド九州」グランドデザイン実現に向けた取り組みについて語る
九州経済連合会 池辺会長



▲薩摩川内市の政策方針について語る
薩摩川内市 田中市長

次は、Reizawa Capital and Acorn CampusのMichel Chu氏、薩摩川内市の田中市長、サーキュラーパーク九州(株)の春木氏が登壇し、持続可能な成長の要となる資源循環について、薩摩川内市の「サーキュラーパーク九州(CPQ)」が紹介された。同施設の敷地内では日台企業共同による次世代型AIデータセンターのプロジェクトが進行している。この台湾からの大型投資の背景には、第1回カンファレンスでの「薩摩川内宣言」を通じた関係構築も契機の一つとして関与している。

産官学金連携による「CPQビジネスフレーム」という強固なネットワークのもと、九州内で完結する自律的な資源循環サプライチェーンの確立を目指す戦略が共有された。

JASMが立地する菊陽町から、農業・商業・工業の調和を目指す持続可能なまちづくりのビジョンが示された。吉本町長は人口増加と農業を強みとしたバランスの取れた町政を強調し、小牧副町長は新駅設置に伴う「知の集積エリア」形成など、異次元のスピードでのインフラ整備を報告した。JASM堀田社長からは、地下水保全(使用量の3~4倍を涵養)や渋滞解消への取り組み、スポーツ・文化を通じた日台交流による地域貢献への強いコミットメントが語られた。



▲「菊陽モデル」の推進について語る
菊陽町 吉本町長



▲「KTCC熊本宣言」を読み上げる
九州経済フォーラム 石原会長

本カンファレンスの締めくくりとして、九州経済フォーラム石原進会長が、主催者を代表して「KTCC熊本宣言」を読み上げた。本カンファレンスにおける議論の総括、およびKTCC宣言の核心内容として、まず人工知能の急速な進化に伴う「シンギュラリティ」を見据え、世界標準のスピードで社会変革に対応していく重要性が共有された。その上で、TSMC/JASMの九州進出をきっかけとした「九州型高度産業エコシステムの確立」に向け、日台双方が単なる模倣を超えて強みを融合させる新たな方向性が示された。また、この変革を持続的な産業発展へとつなげるため、産学官金が一体となった「民間主導・自治体支援の共同モデル」の構築が必要不可欠であると確認された。さらに、両地域の枠組みに留まらず、「日台米の三極連携による交流促進」を通じて、グローバルなイノベーションを牽引する国際プラットフォームとしての基盤を強固にしていく決意が盛り込まれた。

総じて参加者は多様な視点から学ぶことができ、新たな時代に向けて国境を越えた新しい連携の可能性をを切り拓く、実り多き国際会議として成功裏に幕を閉じた。

02 事業報告 ~主要事業レポート~



九州・台湾クリエイティブカンファレンスを振り返って

国立台湾大学 名誉教授、アジア太平洋学術産業連携協会 会長
柯 承恩 (Chen-en Ko) 氏



このたび、九州経済フォーラムの年次報告書『KEFレポート』に寄稿の機会を賜り、鹿児島（2023年）、福岡（2024年）、熊本（2025年）で3年連続開催となった「九州・台湾クリエイティブカンファレンス」を振り返る機会をいただきましたことを、大変光栄に存じます。これまでの取り組みを通じて、台湾と九州の間で具体的な連携や交流が着実に生まれていることを、大変嬉しく感じております。

九州経済フォーラムをはじめ、多くの関係機関とともに本取り組みを立ち上げた際、私たちの目的は非常に明確なものでした。それは、台湾と九州の産学官・研究機関のリーダーたちが意見を交わし、関係を築き、今後の協力につなげるための交流基盤を構築することでした。振り返れば、このビジョンは着実に形となりつつあることを実感しております。

過去3回のカンファレンスにおける最大の成果は、台湾と九州の間に信頼と相互理解が育まれたことにあります。カンファレンスは講演や議論に注目が集まりがちですが、その本質的な価値は「人と人をつなぐこと」にあります。継続的な交流を通じて、参加者は互いの強みや課題、目指す方向性について理解を深めてきました。こうした関係性こそが、さらなる協力を支える基盤になるものと考えています。

また、本カンファレンスには、九州のみならず、日本各地や海外からも著名な登壇者を迎えることができました。こうした交流により議論の幅は大きく広がり、先端技術や産業振興、イノベーションを生み出す産業基盤、さらには世界経済の動向に関する知見の共有が一層深まりました。外部の専門的知見を積極的に取り入れる姿勢は、本カンファレンスを、地域の強みとグローバルな視点を結びつける場へと発展させています。

この連携の重要性は、急速に変化する今日の世界において、これまで以上に高まっています。日本は、長年にわたり培ってきた基礎研究の蓄積と、数多くのノーベル賞受賞者を輩出してきた実績に象徴されるように、幅広く奥深い科学技術力を有しています。一方、台湾は情報技術、半導体、人工知能、さらには柔軟かつ迅速な対応を強みとする製造分野において、世界市場で確固たる地位を築いてきました。こうした相互補完的な強みは、日本と台湾が次世代技術の創出と発展をともに支える重要なパートナーであることを示しており、基礎研究の成果を技術開発や産業化へと結びつけ、さらに世界市場への展開へとつなげていく役割を果たすことが期待されます。

同時に、連携を成功へと導くためには、技術的な相性の良さだけでは不十分です。互いの文化、とりわけ企業文化への理解も同様に重要です。台湾企業は、意思決定の速さや柔軟性、起業家精神に富んだ経営姿勢を特徴とする一方、日本企業は長期的視点、品質へのこだわり、体系的な経営手法で高く評価されています。こうした違いを理解し、互いに学び合う姿勢が、信頼関係を深め、円滑なコミュニケーションを促し、持続的なパートナーシップを築く土台になるでしょう。

今後を見据えると、台湾と九州の協力関係は、より深く継続的な連携へと発展していくべきだと考えます。カンファレンス是对話の場として引き続き重要ですが、その長期的な成果は、共同開発プロジェクトや経営層の交流、人材育成プログラム、スタートアップ連携、産業フォーラムなどを基盤とした年間を通じた継続的な協力によってこそ実現されるものです。

次回、大分で開催されるカンファレンスは、これまでの歩みをさらに前進させる重要な節目になると考えています。過去3年間で育まれてきた友情とパートナーシップがさらに深まり、新たな協力の形が生まれる契機となることを期待しております。

最後に、アジア太平洋学術産業連携協会を代表して、本取り組みの実現にご尽力いただいた九州経済フォーラム 石原会長ならびに関係者の皆さまに、心より感謝申し上げます。九州経済フォーラムのリーダーシップのもと、官民の重要な機関が連携することで、台湾と九州のパートナーシップは今後さらに発展し、双方に新たな価値をもたらしていくものと確信しております。

座右の銘 「誰かのために生きてこそ、人生には価値がある」

私がトヨタ自動車に入社する際に共感したのが、トヨタが創業以来大切にしてきた行動指針のひとつである「誰かのために」です。自分以外の誰かの幸せを願い、価値を届けるという考え方は、これまでのキャリアの中で一貫して私を支えてきました。

欧州や南米での駐在時、多様な文化や価値観がある中でもこの原点の重要性をひしひしと感じたものです。

現在、トヨタ自動車九州に赴任して3年となりますが、メンバーと共にお客様に笑顔を届けるために日々悩み、試行錯誤を重ねております。ゴールがあるようでないですが、その積み重ねこそが、「誰かのために」という原点を体現することであり、これからも変わることなく大切にしていきたいと考えております。



トヨタ自動車九州株式会社
経営基盤強化領域長 鷹見 昭人 氏

【夢中になっていること】

城跡めぐりです。現地に立つと当時の地形や規模感が実感でき、歴史が立体的に理解できます。また必然的に歩くことにもなりかつ自然も楽しむことが出来るので、リフレッシュにもなります。

座右の銘

「常熱」

2026年の西部ガス硬式野球部におけるスローガンであり、野球部長として一年を通して言い続けている言葉です。昨年は『Vamos!!!』を掲げてチームを鼓舞してきましたが、今年は、一人ひとりが“常に情熱を持ち続ける姿勢”に焦点を当てたスローガンとしました。

私自身、もともと熱血型ではありませんが、あらゆる場面において情熱を絶やさずに向き合うことの重要性を、野球を通じて学んできました。特に、監督やコーチがメンバーそれぞれの個性を活かしながらチームの最大化を図る姿勢は、組織運営や日々の業務にも通じる示唆を富んでおり、日々の判断や行動の指針となっています。

また、試合ではグラウンドでプレーをする選手だけでなく、全ての選手が仲間のために声を出し、気づきを共有しながら、自らの出番に備えています。こうしたチーム一丸となった戦いを見ることも、ベンチから野球に係る醍醐味の一つです。

今後も、野球と仕事の双方において学びを深めながら、価値創造に取り組んでまいります。



西部ガスホールディングス株式会社
取締役常務執行役員 御手洗 淳 氏

【夢中になっていること】

6歳と4歳の孫にメロメロです。宮崎に住んでいるので、会うためには「時間」「お金」「体力」が必要で、たまの孫との濃密な時間の後はクタクタになります。それでも、『じいじとばあば、あとなんかいねたら、くると?』と聞かれたら、もう会いたくなくなってしまっています。

株式会社サニックスホールディングス

■企業紹介

サニテーションー 当社創業者の宗政伸一が、衛生管理を意味するこの言葉に可能性を感じ、私たちがビジネスとして取り組んだのが1975年。当時わが国にはまだ、衛生管理をプロの手にゆだねるという発想はなく、何もかもゼロからのスタートでした。

以来、時代のニーズを先取りしながら、産業廃棄物のリサイクル、再生可能エネルギー等、事業領域を広げながら、「環境」を主眼とする各種事業に取り組んでまいりました。

住宅から都市空間、地球環境へと事業領域を広げながら成長してきたことは、当事業の重要性が、多くのお客様にご理解いただけたからに他なりません。

2025年4月、当社グループは、株式会社サニックスホールディングスを親会社とするホールディングス体制へと移行いたしました。「住環境」「エネルギー」「資源循環」の各事業領域を担う各部門が会社として独立し、それぞれに社会課題の解決を図りながら、成長してまいります。

次世代へ快適な環境を

SANIX

■代表紹介

代表取締役社長 宗政 寛

2003年 当社入社

2013年 取締役副社長執行役員

2017年 代表取締役社長

<主な兼職>

宗政酒造株式会社 代表取締役会長

一般財団法人サニックススポーツ振興財団

代表理事

<趣味>

ゴルフ、登山



■企業概要

- ・創業 1975年
- ・代表者 宗政 寛
- ・事業内容 ペストコントロール事業、太陽光発電のEPC(設計・調達・施工)事業、産業廃棄物の適正処理とリサイクル事業など
- ・従業員数 2,033名
- ・本社所在地 福岡市博多区博多駅東2丁目1番23号
- ・ホームページ <https://hd.sanix.jp/>

株式会社シーアンドイー

■企業紹介

私たち(株)シーアンドイーは、2018年の創業以来、福岡・直方を拠点に「音楽と花火」で人の心を動かす感動体験を生み出してきた音楽イベント企画会社です。代表的な事業として、遠賀川河川敷を舞台に開催する野外フェスティバル「MAKE A MONOGATARI」を企画・制作しています。クライマックスでは、福岡No.1となる幅500mのワイドスターマイン、18,000発の打上花火が夜空を埋め尽くし、ステージから響くライブミュージックと一体となって、約15,000名の来場者を光と音の渦へ包み込みます。

「想いが、巡る夜」——同じ花火を見上げ、同じ音楽に包まれながらも、一人ひとりが胸に抱く物語は違う。三世代の家族が同じ空を見上げ、新たな思い出を紡ぐ。そんなかけがえのない時間を届けることが私たちの使命です。音楽と花火が織りなす唯一無二の夜を、ぜひ直方の地で体感してください。

■代表紹介

代表取締役 魚住 昌彦

鞍手高等学校 卒業

久留米大学 卒業

2018年 株式会社シーアンドイー創業



■企業概要

- ・創業 2018年
- ・代表者 魚住 昌彦
- ・事業内容 音楽イベント企画
- ・従業員数 11名
- ・本社所在地 福岡県直方市新町 1-4-21
- ・ホームページ <https://cande.jp/>



役員

KEF役職別・五十音順/敬称略(2026年6月26日現在)

KEF役職	氏名	所属企業・団体名	役職
会長	石原 進	九州旅客鉄道株式会社	名誉顧問
会長代行	貫 正義	九州電力株式会社	特別顧問
副会長	池内 比呂子	株式会社テノ、ホールディングス	代表取締役社長
副会長	磯山 誠二	株式会社九州リースサービス	代表取締役社長
副会長	甲斐 隆博	株式会社肥後銀行	顧問
副会長	小林 専司	(一社)福岡県中小企業経営者協会連合会	会長
副会長	高宮 俊諦	株式会社タカミヤ	代表取締役会長
副会長	田中 亮一郎	第一交通産業株式会社	代表取締役社長
副会長	松本 善雄	NTT西日本株式会社	執行役員 九州支店長
副会長	米山 裕	立命館アジア太平洋大学	学長
副会長	龍造寺 健介	本多機工株式会社	代表取締役社長
常任理事	荒木 知哉	全日本空輸株式会社	福岡支店長
常任理事	梅林 秀伍	梅林建設株式会社	代表取締役会長
常任理事	古賀 正博	(一社)福岡県中小企業経営者協会連合会	専務理事
常任理事	小阪 享司	日産自動車九州株式会社	取締役常務執行役員
常任理事	篠崎 和敏	株式会社JTB	執行役員 ツーリズム事業本部 九州エリア広域代表
常任理事	鷹見 昭人	トヨタ自動車九州株式会社	経営基盤強化領域長
常任理事	田川 大介	株式会社西日本新聞社	代表取締役社長
常任理事	田村 信也	TOTO株式会社	代表取締役社長執行役員
常任理事	富永 泰輔	株式会社福岡運輸ホールディングス	代表取締役社長
常任理事	東原 弘	株式会社NTTドコモ	執行役員 九州支社長
常任理事	御手洗 淳	西部ガスホールディングス株式会社	取締役常務執行役員
常任理事	吉田 泰彦	株式会社福岡銀行	顧問

役員

KEF役職別・五十音順/敬称略(2026年6月26日現在)

KEF役職	氏名	所属企業・団体名	役職
理事	阿部 淳	株式会社日本経済新聞社	常務執行役員 西部支社代表
理事	石田 久仁	大日本印刷株式会社	情報イノベーション事業部 西日本CXセンター長
理事	泉原 博行	株式会社西日本シティ銀行	取締役専務執行役員
理事	宇佐美 慶人	株式会社クラフティア	理事 営業副本部長
理事	内川 孝広	三井不動産株式会社	九州支店長
理事	太田 禎郎	株式会社ホテル日航福岡	代表取締役社長
理事	木戸 啓人	九州電力株式会社	取締役常務執行役員
理事	坂口 光一	(一社) イドビラキ/九州大学	代表理事/名誉教授
理事	筒井 俊英	英進館ホールディングス株式会社	代表取締役社長
理事	縄田 真澄	(公財)九州経済調査協会	理事長
理事	原 正	(一財)九州オープンイノベーションセンター	常務理事
理事	二又 茂明	久留米運送株式会社	代表取締役CEO
理事	古宮 洋二	九州旅客鉄道株式会社	代表取締役社長執行役員
理事	松尾 哲吾	松尾建設株式会社	代表取締役社長
理事	森 慎二	西日本鉄道株式会社	常務執行役員
理事	矢野 健	安全産業株式会社	代表取締役
理事	吉田 昌敬	株式会社メモリード	代表取締役社長
理事	吉村 広志	麻生商事株式会社	専務取締役
常務理事	岡部 知寛	株式会社大洋グループ	代表取締役社長
常務理事	後藤 太一	リージョンワークス合同会社	代表社員
常務理事	戸嶋 太一	中央地所株式会社	代表取締役社長
常務理事	中尾 賢一郎	株式会社GV NEXT	代表取締役
常務理事	浜崎 陽一郎	株式会社Fusic	取締役副社長
常務理事	増田 成泰	増田石油株式会社	代表取締役社長
常務理事	柳瀬 隆志	嘉穂無線ホールディングス株式会社	代表取締役社長

監事

KEF役職別・五十音順/敬称略(2026年6月26日現在)

KEF役職	氏名	所属企業・団体名	役職
監事	西川 勲	九州日観植物株式会社	代表取締役会長
監事	柳井 雅人	北九州市立大学	学長

相談役・顧問・名誉会員・参与

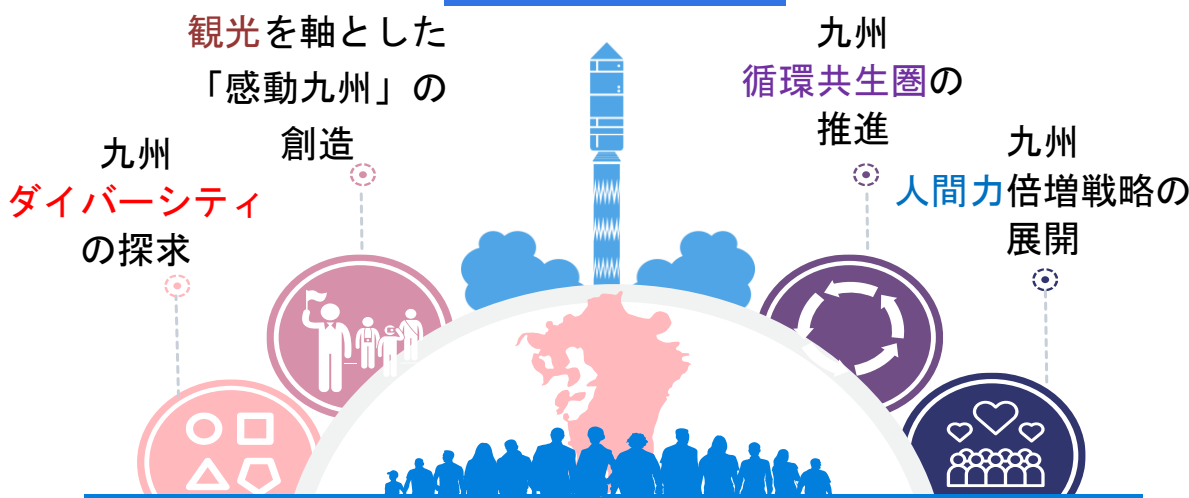
KEF役職別・五十音順/敬称略(2026年6月26日現在)

KEF役職	氏名	所属企業・団体名	役職
相談役	長谷川 裕一	株式会社はせがわ	相談役
相談役	橋田 紘一	株式会社SUMIDA	代表取締役
顧問	垣下 禎裕	国土交通省 九州地方整備局	局長
顧問	杉山 真	財務省 福岡財務支局	支局長
顧問	畠中 基博	日本銀行 福岡支店	支店長
顧問	日向 弘基	国土交通省 九州運輸局	局長
顧問	星野 光明	経済産業省 九州経済産業局	局長
顧問	森 正則	株式会社日本政策投資銀行 九州支店	支店長
参与	伊東 靖之	大分県 福岡事務所	所長
参与	後藤 啓太郎	熊本県 福岡事務所	所長
参与	馬込 いづみ	鹿児島県 福岡事務所	所長
参与	丸田 喜久夫	宮崎県 福岡事務所	所長

KEF REPORT 2025年度

KYUSHU ECONOMIC FORUM.
九州経済フォーラム「令和ビジョン」

ひと！感動九州



創ろう、九州新時代。拓こう、アジアの新時代。



KYUSHU ECONOMIC FORUM.

九州経済フォーラム